

	算数	調平成28年度の結果では、「数学的な考え方」が目標値を大きく上回っており、筋道立てて問題を解決する力がおおむね備わっている。 調平成28年度の結果を領域別に見ると、「量と測定」が目標値を下回っており、改善が求められる。 調平成28年度の結果において、「基礎」に比べ「活用」する力が弱く目標値を下回っていること、算数への関心・意欲が低いことが分かる。	・「量と測定」領域の力を伸ばし、確実に測ったり適切な量感を身に付けたりすることができるようにする。 ・反復練習を大事にしつつ、既習事項を総合的に使って課題を解決したり、より日常生活と結び付いた実践的な問題を解いたりする力を伸ばす。	・確実に面積や角度を求めることができるよう、プリントを用いて数多くの問題を解かせ、習熟を図る。 ・知識を活用する経験を積むことができるよう、各単元において、教科書の問題だけではなく、より応用力が求められる問題を提示する。児童の関心・意欲を高めるため、日常生活や他教科と結び付けた課題を提示する。	・問題の数を多くこなすことでいろいろなパターンの問題に取り組むことができている。解答することが難しかった問題については類似の問題に触れる機会をもつことでより習熟を図っている。継続し、積み重ねを図りたい。 ・早く課題を終わらせることができた児童には発展的な問題に取り組ませる機会を設けている。	
5	国語	調「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、全国平均を約20ポイント上回る結果となった。また、「読むこと」の正答率は、平成27年度に対し平成28年度は19ポイント上昇した。 調「書くこと」では、「第3学年配当漢字を書く」設問において、目標値に対して5ポイント以上下回った。 学提出される学習ノートやワークテストの状況を見ると、漢字の読み書きや慣用句などが十分に定着していない状況が見られる。	・漢字を正しく書いたり使ったりすることに課題が見られる。 ・慣用句や熟語の意味などの理解が不十分である。	・筆順を確かめたり、熟語を用いたテーマ作文などを書いたりする機会を設ける。	・慣用句や熟語を理解し、それらを正しく文章に取り入れる児童が増えた。しかしまだ、文章で表現することに苦手意識のある児童が数名いるので、第3学年の配当漢字から定期的に復習する機会を作っていく。	
	算数	調「図形」では、全国平均正答率に対し約6ポイント上回る結果となった。 調「数と計算」では、全国平均正答率に対し約7ポイント下回った。内容別に見ると、「億と兆・がい数の表し方」「わり算」が全国平均を下回っている。 学単元ごとのレディネステストなどの結果を見てみると、第4学年までの既習事項の中でも、「数と計算」領域で定着していない状況が多く見られる。	・「億と兆・がい数の表し方」「わり算」において、がい数の表し方や位をそろえて計算するという基本的な考え方が不足していると考えられる。	・レディネステストの結果を分析し、各コース、児童の実態に合った学習の進め方を検討し、実践するなど習熟度別算数少人数指導の担当教員と連携し、児童の実態に合った支援を講じる。 ・単元の初めに、既習事項の復習を行うことで、つまづきを減らす。	・既習事項の復習に取り組んできたことで、つまづきが解消した姿が見られるが、まだ課題がある児童もいる。授業だけでなく、放課後学習や家庭学習のときに補習ができるような支援を行っていく。	
6	国語	調「話すこと・聞くこと」の領域ではほぼ全国平均を少し上回っており、国語の全体の正答率も昨年度と比べて5点上がっており、学力が向上してきている。 調「読むこと」では、場面の描写を読み取るところで、全国平均を11ポイント下回っている。 学普段の授業から、読むことが苦手な児童も見られる。また、感想をノートに書くときも時間がかかる。	・漢字を正しく書いたり、使ったりすることができるようにする。 ・話を集中して最後まで聞くことができるようにする。 ・筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをまとめていく力を伸ばす。	・筆順を意識したり、漢字を使った熟語を数多く書いたりすることができるように宿題やテストに取り入れる。 ・全校朝会で一言スピーチをさせる。 ・週に1回、テーマ作文に取り組ませるなど、書く活動を取り入れて、書くことへの抵抗感をなくす。また、学習後、振り返りを書かせる。	・新出漢字を中心に筆順を意識した指導やテストを定期的に行っている。また、宿題や間違い直しを丁寧に行っている。 ・教科書教材での学習だけではなく、より実生活に近いシチュエーション、児童にとって必然性のある課題を提示していく。国語の授業中のみならず、学校生活における様々な場面で意識的、計画的に国語力を伸ばす指導を行う。	
	算数	調前年度と比べ7ポイント上回り、7割の正答率であった。特に「小数のかけ算・わり算」の正答率は8割を超える正答率であった。 調「単位量あたりの大きさ」や文章問題の「小数のかけ算・わり算」、「体積」「合同」では、6割の正答率で目標値を下回った。 学「図形」の学習では、イメージすることが苦手な児童もいる。図形を移動したり、分割したりするイメージが苦手な児童もいて、自分の考えを書くのに時間がかかる。	・図形を正確に捉えることができるようにする。 ・問題を正しく捉えることができるようにする。 ・自分の考えを相手に伝わりやすく説明したり、式や図などから友達の考えを読み取ったりする力を伸ばす。	・構成要素に着目したり、性質を調べたりして、図形を正しく理解させる。併せて作図法の習熟を図る。 ・数多くの文章問題に取り組ませる。また、文章問題を線分図や絵をかかせ、どうやって解いていくかイメージをもたせてから取り組ませる。 ・問題解決学習を行い、発表・検討の場面で児童同士の意見交流が活発になるように発問を吟味し、工夫する。	・習熟度別の少人数学習を進めることで、理解を深めたいグループについては丁寧に行い、よく理解しているグループについては表現力を身に付けられるようにしてきた。 ・問題解決型の学習を通して、主体的に考えたり、論理的に説明したりする力を身に付けさせている。また、単純な計算ばかりではなく、文章をよく読んだり、図をよく見たりして思考を積み重ねていくものを多く提示している。思考を支える既習事項が確実に身に付くよう、繰り返し復習させている。	
	音楽	学各学年とも、自分が演奏したり歌ったりすることには意欲的である。しかし、友達の演奏をよく聴いてよさを見つれたり、自分たちの願いをもって演奏や歌唱に取り組んだりすることには慣れていない。また、鍵盤ハーモニカやリコーダーでは、基本的な奏法において個人差がある。	・鍵盤ハーモニカやリコーダーで習熟の差がある。 ・音楽作りでは、自分の思いやイメージを音楽に表わすことが苦手な児童がいる。 ・鑑賞では、自分の発表に夢中になり、相手の考えをよく聞くことができない児童がいる。	・鍵盤ハーモニカやリコーダーでは、個別指導を取り入れて、互いに聴き合いながら、基礎・基本的な演奏能力を身に付けさせる。 ・歌唱では、児童が自分の想いを伝え合い、声の響きに気を付けたり歌い方を工夫したりしながら、思いをもって伸び伸びとよい表情で歌うことができるようにする。 ・授業の場で個々の発表の場面を多く取り入れ、鑑賞の力を伸ばし、友達のよさを感じ取ることから自分も伸びようとする姿を目指す。 ・音楽作りを通して、自分の思いを音楽に表わす経験を増やす。	・ペアや全体で互いに聴き合う活動を取り入れ、アドバイスをしたり、よさを発表したりしている。 ・歌う姿勢や声の出し方を意識して、相手に語りかけるように歌うようにしている。手本となる児童は、みんなの前で歌い、よさを取り入れて歌っている。 ・音楽づくりでは、低学年でリズムを組み合わせで発表したり、戸二小太鼓では、自分達でたたきたいリズムをつくる活動を行ったりした。	
	図工	学各学年共に関心・意欲・態度は高い児童が多いが、高学年では題材によっては意欲をもてない児童が見られる。発想や構想の能力は個人差があるが、他の児童の作品を見たり、会話したりする中から新たな発想を広げていることが多い。創造的な技能は授業において題材ごとに指導をしているが、道具の使い方が身に付かない児童がいる。鑑賞活動については、意欲的に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きい。	・題材によって、意欲をもてない児童がいる。 ・技能が身に付いていない児童がいる。 ・鑑賞活動に意欲的に取り組めない児童がいる。	・経験が後の認識や可能性を広げるという意義を伝えながら、幅広い取り組みを促す。 ・既習事項を繰り返し確認、指導しながら授業をする。また、題材によっては既習事項を生かした学習となるような設定をする。 ・授業において互いの作品を見合う時間を取り入れたり、見るポイントを提示したりするなど、思いを交流する活動を大切にしていく。	・導入の工夫や参考作品の提示を行い、児童が意欲的に授業に取り組めるように授業作りを行う。 ・既習事項を生かした題材に取り組んでいる。 ・低学年でやや鑑賞に興味をもてない児童が何名かいる。授業の中では自分のクラスだけでなく、違うクラスの作品を鑑賞している。その際に見るポイントだけでなく、自分の製作に生かせるような鑑賞になるように声掛けを行う。	
	特支	学在籍学級の観察及び個人面談等を通して、児童の実態を把握する。	・個人差はあるが、発達の特性から、コミュニケーション能力や読み書き、運動能力全般に課題が見られる。	・個の課題を的確に捉え、個に応じた指導を充実させる。小集団指導では、コミュニケーション能力や運動能力を高める活動を設定する。	・課題の改善が見られ、在籍学級での適応につながっている児童もいる。 ・小集団指導では、自分の意思を表したり相手の話を聞いたりする等、コミュニケーション能力が高まってきた。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。